

< 第9節終了時点順位表 >

	チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1	筑波大学	7	1	1	28	10	+18	22
2	駒澤大学	6	2	1	22	7	+15	19
3	法政大学	4	0	5	17	9	+8	17
4	順天堂大学	4	2	3	15	11	+4	15
5	国士館大学	3	3	3	12	13	-1	12
6	東京学芸大学	4	5	0	14	16	-2	12
7	流通経済大学	2	3	4	8	15	-7	10
8	東京農業大学	2	3	4	8	18	-10	10
9	亜細亜大学	2	4	3	9	13	-4	9
10	明治大学	2	5	2	9	14	-5	8
11	中央大学	2	5	2	12	18	-6	8
12	日本大学	1	6	2	9	19	-10	5

国士館大学は制裁としてリーグ終了後勝ち点 - 7 とする

得点ランキング

9ゴール	平山 相太 (筑波大)
6ゴール	赤嶺 真吾 (駒大)
5ゴール	原 一樹 (駒大)
4ゴール	宮崎大志郎 (駒大)
	藤本 淳吾 (筑波大)
	他2名

アシストランキング

9アシスト	藤本 淳吾 (筑波大)
4アシスト	高野 耕平 (東学大)
3アシスト	石川 高大 (東農大)
	赤嶺 真吾 (駒大)
	宮崎 智彦 (流経大)
	中村 英之 (順大)
	他2名

MOM MF 鈴木亮平



ケガから復帰し、5試合ぶりの出場となった鈴木亮。完治していないものの、2得点をあげる活躍を見せた。次節も期待がかかる。

桑原の活躍があつての無失点、といっても過言ではないだろう。積極的に動き、再三中大のボールを跳ね返した



ケガからの復帰で「今日の自分は全然できていなかった」と語った廣井。だが監督も良かったというように堂々たるプレーで勝利に貢献した

4試合ぶりにフル出場した八角。まだレギュラー定着には至らないが確実に成長を見せている



5月21日 14:40 ひたちなか市公園陸上競技場

駒大4(2-0)0中大 (2位・19) (11位・8)

得点者(アシスト)

- 【駒】15分: 田谷浩浩 1
- 【駒】28分: 鈴木亮平 1 (赤嶺真吾 3)
- 【駒】46分: 鈴木亮平 2
- 【駒】52分: 赤嶺真吾 6 (田谷浩浩 2)

KOMAZAWA	CHUO
GK 牧野利昭(4)	GK 21 高橋 剛(4)
DF 31 安藤 謙(1)	DF 平松大志(4)
DF 桑原 靖(4)	DF 益永康介(1)
DF 廣井友信(3)	DF 32 比嘉隼人(2)
DF 筑城和人(3)	MF 田村直也(3)
MF 八角剛史(2)	MF 34 前田遼平(2)
MF 塚本泰史(2)	MF 小林優希(4)
(32分 最上大輝(4))	MF 頼母木勇太(4)
MF 鈴木亮平(4)	MF 大瀧義史(2)
(83分 29 沼守宏樹(4))	(74分 大谷康晴(4))
MF 宮崎大志郎(4)	FW 辻尾真二(2)
FW 26 田谷浩浩(2)	FW 小倉浩志(3)
(69分 原 一樹(3))	(60分 22 森山裕介(3))
FW 赤嶺真吾(4)	
	S U B
S U B	GK 貝尻崇人(4)
GK 22 山内達夫(2)	DF 大根 亮(3)
DF 28 阿部琢久哉(3)	MF 中村裕武(3)
MF 菊地光将(2)	MF 33 田嶋慎吾(1)
FW 巻 佑樹(3)	FW 23 鷲尾俊介(2)
MANAGER 秋田浩一	MANAGER 山口芳忠

警告(C) / 退場(S)

- 【駒】22分: 八角剛史 (C2)
- 【駒】63分: 最上大輝 (C2)
- 【駒】86分: 沼守宏樹 (C2)

[シュート]17:8GK]9:13[CK]7:4[PK]0:0 直接[FK]6:25 間接[FK]5:3[OS]4:3[主審]大川直也[観衆]約200人

上記データは全て左側の数字が駒澤

U-20日本代表 トレーニングマッチ・レポート 原一樹、最後に意地を見せられるか?

2005年5月24日 豊田スタジアム U-20日本代表 1 - 1 U-20チリ代表

得点( )はアシスト  
6分: カナレス (フエンサリダ) 78分: 水野晃樹 (前田俊介)

- U-20日本代表**  
GK 西川周作/DF 小林祐三、増嶋竜也、水本裕貴/MF 中村北斗、兵藤慎剛、伊野波雅彦、本田圭佑 (45分水野晃樹)、家長昭博 (75分前田俊介)  
FW 平山相太、カレン・ロバート (68分森本貴幸)  
【SUB】GK 山本海人、松井謙弥/DF 吉弘充志、河本裕之、柳楽智和、森下 俊、MF 杉山浩太、荅口卓也、梶山陽平、船谷圭祐、細貝 萌、高柳一誠、山本真希  
FW 原 一樹、豊田陽平
- U-20チリ代表**  
GK アリアス/DF バスクニャン、ムニョス、モンテシノス、ハラ  
MF フェルナンデス (85分パエス)、メネセス (58分パラダ)、パスケス、モラレス (71分リケルメ)、フエンサリダ/FW カナレス  
【SUB】GK エスピノサ/MF ディアス、カルモナ/FW トゥデラ



原 一樹コメント

「(出場できなかったが)国際試合になってくると相手が強いので、点が入らない。駒澤とは違い、ボールを大事にしていくので、その中でうまく試合に出られるように練習でアピールしていきたい。Jでやっている人たちは、ほとんどうまくいっていきから、焦りもあるが(自分の)良いところを見せられるように頑張りたい」

出場がなかった原。代表に生き残るためにこの後の合宿でのアピールにかける

途中出場であったが確実にその存在感を表現した森本。原とフエンサリダの最大の壁となる



この日、中村を右サイドバックに起用し、不慣れな4バックで臨んだ日本イレブンは試合開始から戸惑いを隠せなかった。「前半は4-4-2が機能しなかった」と兵藤が語ったように、中盤のバランスも悪くプレスが掛けられず、チリの素早いサイド攻撃に対応できずにいた。失点は6分、フエンサリダがDFの裏に抜け出し、中央にクロス。そのボールをカナレスが頭であわせゴールを決めた。「失点のシーンは世界のレベルの高さを感じた。試合後の記者会見で述べた大熊監督のとおり、日本にとって早すぎる失点だった。対する日本は、カレン、兵藤がリズムを作るも前半はゴールを奪うまでは至らなかった。後半からは負傷の影響もあり本田に代えて水野を投入。右サイドを突破し、幾度もチャンスを作っていくうちに日本はバランスが整った。68分に森本、75分前田を投入し、さらに勢いをつけ、迎えた77分、前田のフリーキックに水野が飛び込み同点に追いつく。その後も日本の怒涛の攻撃は続きチリゴールに襲いかかるも、ゴールネットは揺らすことはなかった。駒大から唯一選出されている原に番はなかった。今後、より強力なチームと対戦することとなるワールドユースに向け日本はこれからどこまでレベルアップできるのか、そして最後のメンバーに原の名前はあるのか。どちらの観点からも今後の若い日本代表からは目が離せないことになる。